

牧師所感：

母校の大学から書簡を受ける

— 韓国大邱 啓明大学 総長様より —

小生は韓国大邱の啓明大学総長様より心暖まる励ましの書簡を戴いた。外国で生を営んでいる者にとって、大いなる励ましであり光栄である。

さて小生は 1950 年 6 月の韓国動乱（韓国では動乱と称す）に際して従軍し、戦場で戦い負傷し名誉除隊した者である。

その後 神様のお導きによって、啓明大学の宗教音楽科の第一回生として卒業する。ところで念願の海外留学はアメリカと決めていた。しかしどういう訳か、念願のアメリカ留学は果たされず、日本国への留学の道が開かれる。

当時、日本国と韓国は近い近隣であったけれども門戸は開かれず、国交がない為、留学という制度がなかった。けれども神様の配慮により日本の東京に所在する国立音楽大学へ留学の許可が降りた。この出来事はキリスト者だけが受容する奇蹟であるが、奇蹟的に許可され（1912 年発行の牧師所感 I 巻に詳細に掲載）日本の留学生になった。

ところが全能の神は、小生を音楽徒から神学徒に転校させ牧師として、日本国で宣教するように導かれた。早や牧師となって 50 年以上を日本で伝道している。

さて、母校の大学からは、絶えず、日本宣教に従事する小生を、総長様自ら励まして下さっておられる。小生はその御恩に報いる為に全能の神に召されるまで誠意を尽くして献身する所存である。

さて、今日 8 月 31 日、韓国の啓明大学の総長様より、励ましの書簡を戴いた。以下に掲載する。

書簡

猛暑が去って行った後も続く猛暑にも平安でいらっしゃいますか。日本国で尊い使命を継承していらっしゃる牧師様から送られた安否の手紙を頂き感謝の念と共に深い感動です。

牧師さんの母校を忘れることなく、御多忙の中で我が学校と後輩達を慮って、祈って下さり励まして下さっておられることに対して、誠心から感謝致します。

又 牧師様は 6 月 25 日の戦争に参戦されて国の為に献身して下さいその事によってこうむる苦痛にもめげず、すたれることなく、福音を宣べ伝えておられるお姿は私共に大いなる亀鑑になっておられます。

韓国へ御訪問なさる機会が御座いましたら、必ず母校へ寄って下さり、後輩達に尊いお言葉を戴ければ感謝です。私共皆は牧師様のお祈りを忘れず、学校の発展の為に尽くして前進するように致します。

再び申しますのは、牧師先生の健康と使役に、神の多大なる恵みと保護とが下りますように真心より祈願致します。

2024 年 8 月 27 日

申 一 熙 上 拝

